エーゲ海スケッチ紀行(6) エーゲ海の周辺

専門会員 小 泉 実 Minoru Koizumi

1. クレタ島

クレタ島は、周囲の列強からせめられ続け来た歴史がある。

「それでもクレタ人の気概はおとろえることがなかった。」と言うガイドの言葉が印象に残った。

エジプト、ペロポネソス、フェニキア、ローマ、ヴェネチア、トルコ、ギリシャと続く様はすごい。

この島は、ヨーロッパとアジア、アフリカの間にあって、海を介してミノア文明を構築した実績がある。

また、沈下した謎の大陸があるとしたら、ここより他にないだろうと言う人もある。

クノッソスは、大地震にあいながらも、500年にわたる建設の歴史がそれらをあかしてくれている。

2. サントリーニ島

ステラマリン号は、早朝のサントリーニの内海へは行っていった。

赤黒い断崖のいただきに連なる白い建物を見て、感動し、風に吹きとばされないようにしながらスケッチした。

やがて、曲りくねった坂道をロバに乗って登りきると崖上からまた描いてみる。

図1 クノッソスの牛

図2 クレタ島

期待で胸をふくらませていただけに、この景観に少しでも長く接していたい気持だった。

今、内径約10kmのカルデラも、BC 2000年頃は、ストロンギリ（丸い）と言われる島だったが、BC 1450年の大噴火で大きくくずれ、AC 236年に現在のようにティラシア島とはなれたようである。

3. ミコノス島

クレタ島を中心に、左まわりの季節風が吹いており、それを「メルテミア」と言うそうだ。

今日も強く吹いている。

船はこのクルージング中はじめてのゆれが続き、おかげで少し船酔いしてしまった。

島のシンボルである風車の所まで来ると、さすが風の通り道である。

図3 クノッソスの柱

図4 フィラの断崖

スケッチブックも私も、吹きとばされそうになるほどだった。

街へおりてゆく坂道の所で描いていると、ボールをもった少年が寄って来て、私の絵を見ていた。

図5 ロバで登った道

図6 崖にある細道と照明器具

図7 サントリーニ島の成立

別れぎわに「エフファリスト」と言ったら、ほほえみながら手を振ってくれていた。

これで6回にわたったエーゲ海のスケッチ紀行をおわる。

図8 風車のある風景

図9 ミコノス要部

図10 ミコノスの夜景